

弔 辞

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元会長ならびに東京工業大学名誉教授故作井誠太殿の御霊前に謹んで申し上げます。

先生は、昭和5年3月東京大学工学部冶金学科をご卒業され、財団法人理化学研究所に勤務されました。その後、昭和16年に創設間もない東京工業大学に赴任され、助教授、教授を経て昭和42年には東京工業大学名誉教授になりました。東京工業大学ご退官後は電気通信大学また東京理科大学の教授として、生涯を学理の探究、学生および研究者の教育・育成にご尽力されました。この間、先生は、材料の基礎的な力学的性質の解明は、単純引張変形の理解によるという信念を持たれていました。そして、金属材料、特に鉄鋼材料の引張変形を極めて高速という条件のもとで研究され、創意あふれる小型及び大型装置を工夫され、高速変形の基礎的研究を行われました。そして、脆性が問題となる低温から、加工性も対象となる高温までの広い範囲にわたって、高速変形の物性学と力学を解明されました。

これらのご業績により、本会からは依論文賞、協会事業功労賞、西山賞を受賞されましたほか、本会の推薦により本多記念賞を受賞されております。

研究の傍ら、社団法人日本鉄鋼協会にあっては理事（副会長2期3年、会長1期2年）、評議員、標準化委員会（初代委員長10年）、編集委員を歴任され、鉄鋼の学術技術の向上、国際交流の促進等諸事業の発展にご尽力されました。

特に、会長在任の昭和49・50年度には、本会創立60周年を迎え、その記念事業の一つとして「鉄鋼技術の進歩」と題した会誌「鉄と鋼」特集号を刊行いたしました。この編集に当たりましては、我が国の鉄鋼生産設備の巨大化、操業の合理化、および生産性の向上等、高い技術水準を盛り込むべき指導力を発揮されました。

また、この鉄鋼技術を背景として、日ソ製鋼物理化学シンポジウム、欧米鉄鋼研究所視察団を派遣し、更に自ら团长としてチェコスロバキア鉄鋼所視察団を結成されるなど国際交流事業にはことのほか意を注がれました。

先生は、JIS鉄鋼規格等の標準化事業を通じて通商産業大臣賞を受賞されましたほか、先生の鉄鋼工学、鉄鋼産業への貢献は諸外国からも認められ、本会はもとより外国の学会からも名誉会員に推挙されております。

今や、我が国の鉄鋼技術は最高の水準に達し、世界のリーダーとしての地位を確立いたしました。先生は、これらの基盤作りをして下さいました。

このような偉大なる元会長との永遠のお別れは、誠に痛惜の至りであります。

ここに、社団法人日本鉄鋼協会を代表して、先生の遺された幾多のご業績に深甚なる敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成4年3月12日

社団法人 日本鉄鋼協会
会 長 森田 善一郎